

コアグラーゼ検査用
ウサギプラズマ‘栄研’

- ブドウ球菌の**コアグラーゼ産生能**の有無を確認
- 試験管法とスライド法で検査可能



機構および特徴

コアグラゼは黄色ブドウ球菌が産生する特有の酵素で、表皮ブドウ球菌はこれを産生しないため、黄色ブドウ球菌の鑑別に利用することが出来ます。コアグラゼは菌の増殖時に産生される遊離コアグラゼ (free coagulase) と細胞表面部に存在する結合コアグラゼ (bound coagulase) の2種類に区別され、試験管法は主として遊離コアグラゼによって凝固し、スライド法は主として結合コアグラゼによって凝集するものと考えられています。

使用方法

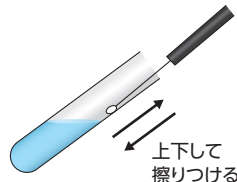
試験管法

1 プラズマ溶液の作製



- 本製品に滅菌生理食塩水7mLを加えて乾燥プラズマを溶解します*。
- このプラズマ溶液0.5mLを滅菌小試験管に分注します。

2 被検菌接種

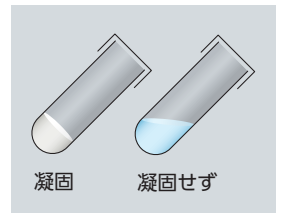


あらかじめ非選択寒天培地で1夜培養しておいた被検菌の一金耳量を先程の試験管に接種しプラズマ溶液と混合します。

3 静置

37℃に3時間静置します。

4 判定



プラズマ溶液が凝固したもの、あるいは全体が凝固してなくてもフィブリン析出の認められるものを陽性とします。
(陰性の場合は更に培養し、翌日判定します)

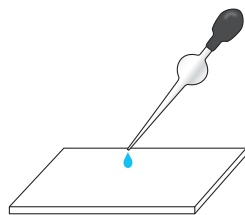
スライド法

1 プラズマ溶液の作製



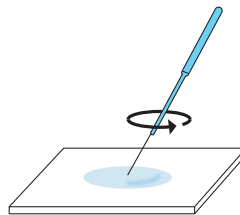
試験管法と同じ要領でプラズマ溶液を作ります。

2 被検菌液滴下



被検菌液 (非選択培地による新鮮培養菌を使う) 1滴をスライド上に滴下します。
(滅菌生理食塩水を1滴スライド上に滴下し、非選択培地上の被検集落を釣菌して、塗り広げないようによく混ぜ合わせてもよい)

3 混合



プラズマ溶液1滴を菌液のすぐそばに滴下し、直ちに両者を混合します。

4 判定

15~60秒以内にブドウ球菌の凝集が認められた場合に、陽性と判定します。1~3分で凝集した場合は疑陽性、3分経過後にも凝集していないものを陰性とします。両者とも対照を置き、自発凝固(あるいは自発凝集)が起こらないことを確認します。

*溶解したプラズマ溶液は必ず2~10℃に保存し、速やかに使用してください。凍結するとフィブリンが析出するので、使用しないでください。

製品情報

【形状・構造・組成】

本製品は、ウサギプラズマ1mLを凍結乾燥したものです。

ウサギプラズマ…………… 7mL分×5

製品名	貯蔵方法	有効期間	包装単位	製品コード	統一商品コード
ウサギプラズマ‘栄研’	2~10℃	2年間	7mL分×5	E-ME07	026220864

本試薬の使用上又は取扱い上の注意については、使用説明書をご参照ください。
内容については、予告なく変更することがあります。予めご了承ください。